

令和5年度第2回京田辺市社会教育委員会
会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 活動報告について

山城地方社会教育委員連絡協議会総会、京都府社会教育委員連絡協議会総会、近畿地区社会教育研究滋賀大会に参加した委員が報告を行った。

(2) 京田辺市の社会教育について

資料の概要について、事務局及び委員長が説明

(委員長) これまで委員の皆さんからいただいた意見を、京田辺市の社会教育が目指す社会を3つに分類した。最終的に何をを目指すか、焦点を絞って理想像を合わせていきたい。

(委員) コーディネーターはどうやって見つけていけばよいのか。ボランティアでは限界がある。非常勤で良いので考えて欲しい。コーディネーター養成講座等の開催や、マニュアルを作って欲しい。

(委員) 小学校が週休5日制になったときに始まったふるさと体験学習は地域の人とふれあった良い事例。特に普賢寺小学校は力を入れており、打田、高船までの雲上遠足は地元の人とふれあえて良かった。

(委員) 京田辺には素晴らしい取り組みがある。ヒューマンカレッジは、31年続いている。KDS Cのレスリングも今年良い成績を収めた。サイエンスアカデミーでは、小学生が理系に対する苦手意識をなくす。良い事例を増やしていきたい。

(委員) ヒューマンカレッジは良い取り組みだが、会場に行くのが難しい。マイクロバスを会場まで出すことや近くの駐車場を開放して参加しやすくして欲しい。

同志社の先生に公民館で講義してもらえば良い。

(委員) 海外にいた時の経験からだが、子どもを学校まで連れて行ってくれたり、買い物する場所を教えてくれるニューカマー(新しい住民)のお世話をしたりする人がいればよい。身近なところからの交流が大切

(委員) 同志社は、我々の街の学校という意識を高めて欲しい。せっかく同志社があるのだから利用してほしい。

(委員) 新しい住民は、自治会に入らない。自治会の支払が必要だし、役員も回ってくる。入ってもメリットがない。老人会の人数は増えているが、子ども会には入らない家庭が多い。自治会の楽しさを伝えるが、自治会が敬遠されるのはなぜか。自治会活動に関心を持ってもらえれば、社会教育活動もやりやすくなるはず。

(3) 山城地方社会教育委員連絡協議会研修会の課題テーマについて

京田辺市が課題を提起することになっているため、副委員長が「京田辺市の社会教育について」の発表をすることになった。

6 その他

教育総務室が（仮称）教育振興基本計画について説明を行い、意見がある場合は意見シートを提出するよう伝えた。

委員長が第1回複合型公共施設整備基本構想懇話会の報告を行った。

7 閉会 副委員長あいさつ